

「防衛省の暴走」

2015.09.04

8月11日の参議院特別委員会で、小池晃議員が統合幕僚監部の内部資料を暴露する発言をした。安保法案が審議されていないのに、法案成立を見越し、日米防衛協力のための指針（ガイドライン）を検討していた。資料には、南シナ海の警護の監視、南スーダンに派遣しているPKOの「駆け付け警護」の追加などが明記されていた。小池議員は「戦前の軍部の独走と同じではないか」と中谷元・防衛大臣に迫っていた。中谷防衛相は、資料の存在を知らない、法案成立前の検討は先走りなどと答えていたが、最後は、防衛庁は様々な状況を見据え、検討していると開き直っていた。

安倍首相が訪米した時、安保法案が審議されていないのもかわらず、夏ごろまでに成立させると発言した。国会軽視、国民無視の発言に驚きと怒りを覚えた。安倍政権は米国の意向に沿うように、政策を進めているとしか思えない。

9月2日の参議院特別委員会で、仁比聡平議員がまたまた防衛省の内部資料を暴露した。仁比議員によると、資料は統幕が作成したもので、陸海空自衛隊を統括する統合幕僚監部の河野克俊幕僚長が昨年12月17日、18日に訪米した時、米軍・国防総省幹部7名と歓談した内容の記載であると言う。オディエルノ陸軍参謀総長との会談で、集团的自衛権の行使容認を柱とする安保法案の見通しを問われ、河野幕僚長は衆議院選挙に触れ「与党の勝利により、来年夏までには終了すると考えている」と答えた。安保法案に関する自民党と公明党の与党協議が始まっていない段階で、防衛省幹部が米軍首脳に法案成立を言明するなど、あり得ないことではないか。これが事実だとしたら、文民統制（シビリアンコントロール）が壊れていることになる。おそらく、政府の意向を河野幕僚長に伝え、それを米政府に語ったのであろう。この内部資料に関しても、中谷防衛相は「いかなるものか承知していない」と答弁を曖昧にしている。

資料によれば、河野幕僚長は一連の会談で、普天間基地に配備されているオスプレイに関し「不安全性をあおるのは一部の活動家だけだ」と説明し、辺野古新基地建設について「(米軍と自衛隊の)共同使用が実現すれば、協力が一層深まり、住民感情も好転するのではないか」と述べたと言う。沖縄県民の民意を理解していないし、しようもしない。

自衛隊は、憲法九条によって軍備は表に表れず、災害支援の働きが評価されてきた。しかし、防衛省の内部資料が提示されると、仁比議員の「戦前の軍部と一緒に、自衛隊が暴走していることが裏付けられた」という発言を聞き、納得させられると言わざるを得ない。安倍政権は国会審議など無用とし、主権を持つ国民をバカにし切っている。衆議院選挙はアベノミクスの経済政策を問う選挙であった。株価上昇と円安に踊らされた国民は自民党に投じ、勝利した自民党は隠していた集团的自衛権行使容認も支持されたと、安保法案を前面に出してきた。しかし、投票率は60%、その半数を得たとしても30%である。自民党は国民の20数%の支持を得ているだけである。安保法案が審議されている中で、戦争への危険を危惧し始めた国民の60%が反対している。民主主義の危機、政府の暴走を止める立憲主義が危うい状況にある。

安保法案に対して、垣根を越えて、あらゆる階層から反対の声が上がっている。政党や組織に動員されたものでなく、止むに止まれぬ思いが集積されている。政治家たちは大人しい日本人は御し易いと高を括っていただろうが、これからは、皆が意志表示をするようになる。若者の政治参加が頼もしい。民主主義が確実に育っていくことが期待できる。